

第5回地方創生医師団シンポジウム開催報告

海陽町国民健康保険海南病院

(1) 地方創生医師団

夢を持った中学生や高校生、大学生、若手医師が、自信を持って自分たちの生きる道、医師道を進んでいける医療界に変革するため、すでに田舎・地方で活躍している医師及び医学生を中心に結成。

活動内容は、田舎・地方で、義務や使命感で働くのではなく、夢や希望を持って働く医師を育てる。

団長 三重県志摩市民病院 院長 江角悠太氏

(2) 実施日

令和5年5月19日(金)～21日(日)

(3) 場所

海南病院、海陽町役場海南庁舎、まぜのおかオートキャンプ場

(4) 参加者

医師	15名
コメディカル職員	7名
医学生	11名
その他	4名
計	37名
住民等	136名
合計	173名

(5) 内容

- ① 病院職員と意見交換
- ② 町職員との意見交換
- ③ 海陽町わくわくキュンキュンミステリツアー
浅川、大里、神野、鞆奥、穴喰、竹ヶ島
- ④ ディスカッション

オープニングトーク

地方創生医師団長・志摩市民病院院長 江角悠太氏

テーマ1

持続可能な地域医療を維持するには、効率化！機能分化！
住民の視点から地域医療の在り方をどう取り入れるべきなのか。

テーマ2

海南病院に求められている医療とは。(事前に実施の住民アンケート結果より)

テーマ3

田舎の病院で、医師が働きたいと思える環境、体制とは。
医師の視点、行政の視点から。



(6) 新たな気づきと効果

- ・ 医師が働きたいと思う環境
 - ① 子供の教育、周りの住民が受け入れてくれるかなど、生活をサポートしてもらえて、家族が来やすい環境であるか。
 - ② 全ての仕事を任されたり、退職まで勤めて欲しいなどの勤務条件であると、精神的、肉体的に疲弊するので、医師に応じた勤務条件に柔軟に対応できるか。
 - ③ 自己研鑽が積めるか。

- ・ 海南病院には、患者を最初の段階で診療し適切な診断処置を行い、必要があれば専門医や診療機関へ引き継ぐ、総合診療医がいる事が望ましい。

- ・ 徳島県地域枠医師、自治医大医師、民間病院医師等、同じ条件で依頼するのではなく、その医師の所属、雇用形態に応じて依頼する。

- ・ 時間はかかるが、医学生の時から来て頂き、職員も、住民も地域の魅力等を伝えれば、将来の選択肢になる。
きっかけの一つが、住民にも参加して頂く病院祭り。

- ・ 住民、職員の魅力、地域の魅力により、医師は動く。

- ・ 参加された医師・医学生から、これで終わりではなく、これからも海南病院を支援、協力したいとの申し出がある。